

松江市街地の内水処理計画を審議しました。

平成24年8月24日（金）に松江市役所防災センターにおいて「第5回松江市街地治水対策検討委員会」を開催し、①これまでの検討結果の中間的なとりまとめ、②松江堀川治水計画の検討について、および③下水道（雨水排水）整備やソフト対策について審議を行いました。

①これまでの検討結果の中間的なとりまとめについては、方針を確認し、早期実施に向けて具体的な作業を進めることが、了承されました。



■新委員の紹介

今回の検討委員会から、人事異動により国土交通省出雲河川事務所長の平山大輔委員の後任として、館健一郎委員が新委員となりました。

【①これまでの検討結果の中間的なとりまとめについて】

治水計画（案）のうち、第4回検討委員会までに方向性が示された「内水処理検討（橋北地区・橋南地区）」および「天神川の治水計画」について、中間的なとりまとめを行いました。これらの内容のうち、橋北地区の内水処理として上追子川に内水排除ポンプを5.0m³/s増設することについては、最終的な委員会提言に盛り込むことを前提に、早期整備に向けて具体的な検討を進めることが了承されました。

【②松江堀川治水計画（案）の検討について】

大橋川の河川整備計画と整合を図り、実現可能な計画を選定した「今後20年間の計画（案）」では、第4回委員会で示したとおり、選択する計画[1案]遊水池新設、[2案]北田川中流域部分改修、[3案]放水路新設の3つの案のうち、どの案を選んでも目標水位T.P.+1.30mを下回ることができませんが、浸水する家屋数は7戸であり、浸水範囲は局所的です。

パブリックコメントも踏まえて、[3案]放水路新設案については、[3'案]水路幅を実現可能な範囲で最大限拡げ、6.90mとして追加検討しました。その結果として、[3'案]でも目標水位を完全には下回ることができず、浸水範囲も変わりませんが、他案と比べて水位の低下や浸水時間の短縮の効果が確認できました。

これらのことを示し、今後の方針を以下のとおり示しました。

「今後20年間の計画（案）」では、目標水位であるT.P.+1.30mを下回ることができないが、浸水範囲が局所的であることから、下水道（雨水排水）整備やソフト対策を含め、具体的に[1案]～[3'案]を検討し、被害を最小限にとどめることを目指す。

松江堀川治水計画（案）の総合評価を以下の項目により行うことを示し、了承されました。

【松江堀川治水計画（案）の総合評価（案）】

○これまでの4つの評価項目①「安全度」②「コスト」③「地域社会への影響」④「環境への影響」に、⑤「実現性」を加えた5項目で評価を行う。

【③下水道（雨水排水）整備やソフト対策について】

松江市街地の雨水排水対策は、松江市公共下水道整備計画に基づき、家屋浸水の解消を目標として、下水道（雨水排水）整備の方向性を以下のとおり示しました。

【橋北地区】

○上迫子川に内水排除ポンプ5.0m³/sを増設する計画と共に、浸水実績地域を優先して雨水排水整備を実施する。

【橋南地区】

○大橋川流域は、内水排除のための東朝日ポンプ場建設と、そこに雨水排水を導く東西の幹線を整備する。
○浸水実績区域を優先して雨水排水路を整備する。

ソフト対策は、ハード対策がすぐに効果発現しないことや、想定外の洪水に対する備えとして、対応可能と考えられる以下の項目を実施に向け検討していくことを示しました。

【路上水位情報】

○路上浸水計・水深警報装置の設置

【宅地開発等の流出抑制基準の設定】

○宅地開発区域内の流出抑制基準設定
○土地利用の規制
○自然地の保全
○雨水貯留施設の設置 等

【被害軽減対策】

○防災組織の充実・強化
○避難誘導體制の確立
○河川情報の共有化
○防災研修・防災教育の充実 等

【委員会でのご意見】

委員の方々から検討におけるご意見や留意事項など貴重な意見を頂きました。主なご意見と回答は次のとおりです。

【主な意見】

総合評価の放水路案について、コストでは、短期に多額の費用がかかるということは加えるべき。地域社会の影響では、公園利用者の視界を一部妨げることを加えるべき。環境への影響では、宍道湖景観形成区域であるため、デザインに配慮する必要があること加えるべき。

下水道（雨水排水）整備について、黒田地区周辺がよく浸水するが、先行して整備すれば、今浸水している箇所も助かるのではないか。
河川計画と下水道計画の連携はできるのか。

黒田地区周辺は、地盤が低い場所がまだたくさん残っていて、今後そこで宅地開発が進む可能性がある。低い地盤の箇所は、それなりに盛土をしないと家を建ててはいけないといった規制を考えていただきたい。

【回答】

事業が短期に集中することについては、コストではなく、実現性の段階施工が可能かという項目で、予算的に短期間で必要であるといった表現にしたい。

地盤が低い箇所は、先行して着手することを検討する。
河川整備は時間がかかるので、道路の嵩上げや下水道整備と併せて雨水排水用のマンホールポンプの設置を検討する。

今後、土地利用規制について実施可能かどうか検討する。

【今後の予定】

次回検討委員会では、松江堀川の治水計画（案）および松江市街地治水計画（案）の「1案：遊水池案」「2案：北田川部分改修案」「3案：放水路案」の3案のうち、どの案が最も有利か、または優先度が高いかについて評価する予定です。

お問い合わせ先：松江市街地治水対策検討委員会 事務局

島根県土木部河川課

企画調査グループリーダー 星野 充孝

TEL:0852-22-6747 / FAX:0852-22-5681

↓松江市街地治水対策検討委員会の情報はこちらをご覧ください↓

http://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/matsuetisui/tisui_top.html